

2020年11月2日

前回冒頭に、これから世界は最悪の食糧不足の時代が来ると書いた。今年のヨーロッパ、アメリカは近年にない寒波に襲われ、オーストラリアを含め各地で異常気象が続いている。この状況は世界的に人間が食べる穀物だけではなく、牛や羊、鶏のエサも不足することを示している。さらに自然災害と言ってもいいのか蝗害の発生も見られ、東南アジア、南部中国も相当な被害に襲われている。忠義区ではさらに洪水委の被害が大きく中国の穀物地帯も大きな打撃を受けており。中国では既に備蓄食料の買い付けを全世界でおこなっているといわれている。翻って日本はどうなのだろうか？多分何もしていない。ろくでもない政治闘争に明け暮れしている。大手マスコミもヨーロッパ、アメリカの寒波などどこも伝えていない。まして近い将来食糧不足が顕在化するなど、どこでも述べていない。温暖化と騒いでいた連中なので寒波が襲来していることを少しも報道したくないかの様。少なくとも寒冷化に関することは少しも言えない。しかしながら冒頭で述べたように世界的な食糧不足が控えていることを伝えてほしい。この食糧不足はお金を積んでも食糧が手に入らないというレベルのものだ。日本は食糧をどうやって調達していくのだろうか？休耕田を再度利用しても食糧が得られるのに、どんなに頑張っても2~3年はかかるだろうし、うまくいって今の状況では国民すべてが食える状況は作れない。これから顕在化する未曾有の減少をどうしのいでいくのか見当もつかない。繰り返すが、今度の食糧不足はお金を出せば何とかかなるというような代物ではないはずだ。